

乳児保育効力感（自作）尺度の作成

A Study of a Scale of Measuring Their Childcare Abilities.
— For College Students Majoring Childhood Education. —

加藤 房江
(こども学科 専任講師)

要旨

保育所実習の終了した学生の予備調査から得られたデータを分類し、生成したカテゴリーの内容や保育所保育指針解説書・近年本邦で出版されている「乳児保育」の解説書等の内容を反映させた「乳児保育効力感」の50の項目候補を作成した。乳児保育の具体的保育行為がうまく出来るかどうかの効力感を問う内容となっており、因子構造の検討を行った。

【キーワード：乳児保育 保育実習 保育者効力感】

1. はじめに

1. 近年、保育能力向上に関して、「保育者効力感」という視点から検討した研究が増加傾向にある。「保育者効力感」は、Banderの自己効力感（self-efficacy）の概念を応用・発展した領域であり、「教師効力感」の保育者ないし保育専攻学生に対応した尺度である。保育者効力感は、「保育場面において子どもの発達に望ましい変化をもたらすことができるであろう保育的行為をとることができる信念」と定義している（三木・桜井，1998）。

三木他（1998）は、保育専攻短期大学生は、2年間で行なわれている保育者養成教育のうち、幼稚園や保育園における「実習」は重視されているものの1つであると述べている。この重視されている幼稚園実習・保育所実習（保育所実習Ⅰ・保育所実習Ⅱの両方を総合した実習を保育所実習と称し、以下保育所実習とする。）は、保育者効力感に多大な影響を及ぼすものと推測されるとしている。保育者効力感尺度を用いて、教育実習前後で保育者効力感がどのように変化するか、2つの研究において教育実習は、保育者効力感をほぼ高める傾向にあることが示され、一般的な自己効力感も教育実習により高まることが明らかにされた。小藺江（2013）は、保育実習が学生の自己効力感に与える影響について、意図的に保育スキルを使うための用意をして実習に臨むことが、実習後の自己効力感を上昇させることを明らかにした。

田辺（2011）は、保育者の資質向上に資する知

見を得るため、心身ともに健康な子どもを育むための保育実践の内容について「健康」保育者効力感尺度の作成を行い、保育能力向上について、「保育者効力感」という概念が多様化する保育環境において、有効な保育を展開していく要因となると述べている。

筆者の担当する保育者養成の乳児保育の授業において、学生の授業に対する学びの意欲や関心が、保育実践力を高めることに繋がり、実習や保育の現場において、保育者効力感が高まることに結びつくのではないかと推察される。乳児保育の授業が、ビジュアル的にも分かりやすく興味のある内容として能動的に経験できることで、乳児に対する理解や保育実践力を高めることに繋がり、実習や保育の現場において、必要な保育行為が上手くできるかどうかという見通しや予測の認知として、保育者効力感に影響すると考えられる。

そして、3歳未満児と3歳以上児とでは、発達の特性上、保育内容・方法も大きく異なり、養護的関わり、子どもの自身の成長を支える視点が必要と考えた。しかし、先行研究において、幼児を対象した保育者効力感はあるものの、「乳児保育」に着目した効力感尺度は、見当たらない。

そこで本研究は、「乳児保育」に特化した保育効力感尺度の作成が必要であると考え、乳児保育の具体的な保育行為に沿った保育効力感を作成し、それを乳児保育効力感（自作）と定義し測定を試みた。

研究1

目的

先行研究や本学の学生を調査した内容から、保育所実習を行った際、乳児に対して困難感を感じた内容を調査する。そして、乳児保育の具体的な保育行為に沿った乳児保育効力感尺度を作成するため、項目の作成を行なう。

方法

調査対象

A県内のC短期大学2年生47名に依頼し、実施した。また、B県内のD大学の4年生10名にも同じ条件で依頼し、実施した。両大学とも、保育所実習を終えた保育専攻学生で、計63名を調査対象とした。

調査時期

平成28年2月上旬に実施した。この時期は、幼稚園実習、施設実習、保育所実習とすべての実習が終了している。実習内容をよく把握し、就職に向けて今まで学習してきたことを保育の現場にて実践に移していこうとする時期である。

調査手続き

筆者の乳児保育の授業終了後に実施した。事前に倫理的配慮として、「研究の目的」「自由参加であること」「個人が特定されないこと」「個人情報厳守すること」を説明して依頼し、無記名で回答を求めた。他の授業担当者に調査の実施を依頼し、同じ条件での回答を求めた。所要時間は、10分程度であった。回答数は、63名（回収率100%）、有効回答数は、回答に不備のない57名（90.4%）であった。

質問紙の構成

以下の4つの項目に対して自由記述で回答を得た。「保育所実習終了後アンケート調査」

(1) 保育所実習では、何歳児のクラスにはいましたか。

0歳児から5歳児のクラスで何日間実習を行ったかを尋ねた。

(2) 実習の体験や先輩保育者の様子みて、何歳児の保育やお世話が大変と感じましたか。

(自由記述回答)

(3) その理由はなんですか？ いくつでもお書きください。

(例：言葉が通じない乳児への支援の仕方。保育の内容や遊びの方法。)(自由記述回答)

(4) 大変さを克服するために、あなたはどんなことをしましたか。

また、どのようなことをすればよいと思いますか？(自由記述回答)

結果

A県内のC短期大学2年生47名とB県内のD大学生10名の保育実習を終えた保育専攻学生計63名から回答を得たが、有効回答数は57名であった。

質問1「保育園実習では、何歳児のクラスにはいましたか。」に対し、57名中41名が回答した。0歳児79日間、1歳児88日間、2歳児162日間、3歳児152日間、4歳児119日間、5歳児119日間だった。有効回答の41名の各年齢における実習平均日数を求めた。

0歳児平均1.93日間、1歳児2.15日間、2歳児3.95日間、3歳児3.71日間、4歳児2.9日間、5歳児2.9日間だった (Figure 1参照)。

質問2「実習の体験や先輩保育者の様子みて、何歳児の保育やお世話が大変と感じましたか。」の質問に対し、困難さの年齢を求めた。

困難さや課題を感じた年齢は、0～3歳未満児において、72であり、3～5歳児は、17の回答が得られた(複数回答有り)。年齢別では、0歳児52、1歳児44、2歳児47、3歳児21、4歳児4日間、5歳児6の困難さがあげられた。保育所実習において、調査の結果から、圧倒的に3歳未満児に困難さや課題を感じていることが分かった。(Figure 2参照)

質問3「その理由はなんですか？ いくつでもお書きください。」の質問に対し、自由記述での回答を求めた。

保育所実習において困難さを感じた内容は、「実習生と子どものコミュニケーションに関するもの」41項目、「子ども同士の関わりに関するもの」15項目、「おむつ換え・排泄に関するもの」13項目、「遊び・表現に関するもの」10項目、「食事に関するもの」10項目、「安全に関するもの」9項目、「着脱・清潔に関するもの」4項目「睡眠に関するもの」3項目であった (Table1)。調査内容の分析の解釈が妥当であるかを分析者以外の視点から確認するために、臨床心理士1名、保育所現役で、乳幼児の専門家1名の協力を得て、KJ法に基づいて分類を行った。

記述内容の特徴により、「コミュニケーション(子どもとのコミュニケーションであり、以下コミュニ

ケーションとする)」「子ども同士の関わり」「おむつ換え・排泄の援助」「遊び・表現」「食事の援助」「安全に関する対応」「着脱・清潔の援助」「睡眠時の援助」の categorie を生成した。

質問4「大変さを克服するために、あなたはどんなことをしましたか。また、どのようなことをすればよいと思いますか？」の質問に対し、自由記述での回答を求めた。

「保育者の対応を真似て、実践する。」の項目が20,「コミュニケーションを図り、信頼関係をつくる。」の項目が8,「子どもを観察する。」の項目が8,「子どもの発達を把握する。」の項目が8,「子どもの気持ちを受け止める。」の項目が6,「歌や手遊びなど音から楽しむようにする。」の項目が4となっており、69項目の回答が得られた(複数回答あり)(Table2)。

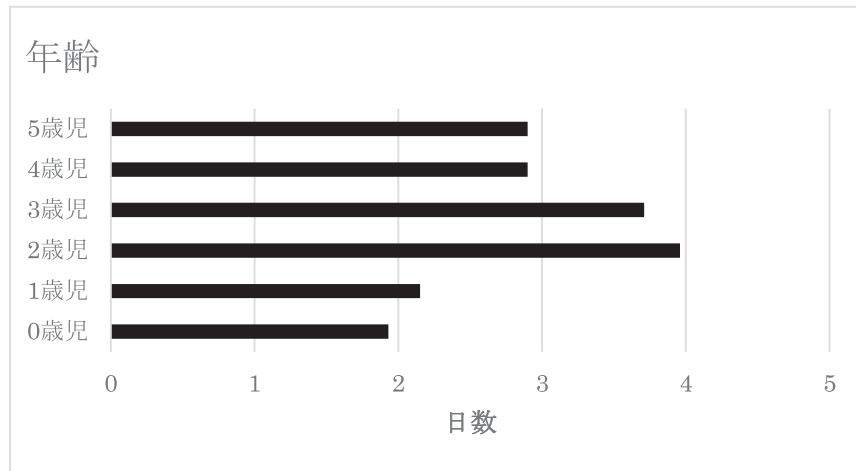


Figure 1 保育所実習で、実習した年齢のクラスの日数

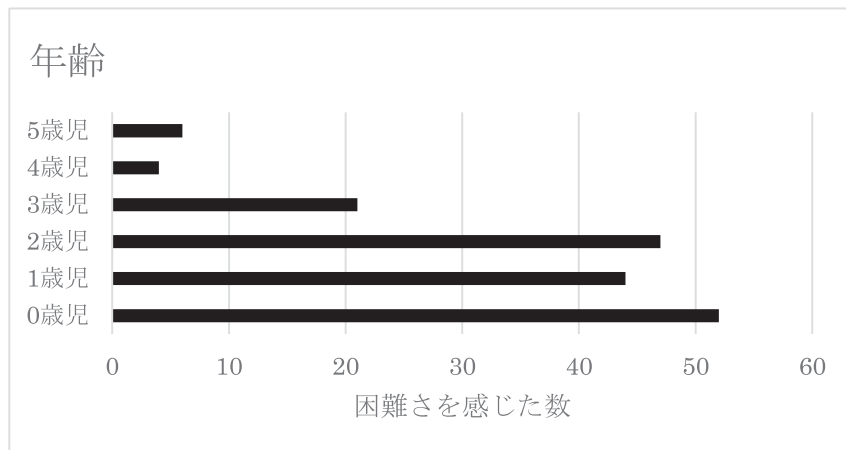


Figure 2 保育所実習で、困難さや課題を感じた年齢

項目	重複数
＜実習生と子どものコミュニケーションに関するもの＞	
言葉が通じないので、コミュニケーションの仕方や関わり方が難しい	19
イヤイヤ期の対応	8

自我が出てきて、自己主張が強くなる	3
何をしたいのか分からない	3
声がけ・かかわり方	2
人見知りのこと	2
どのように声がけすればいいか分からない	0
保育士の助言が多く必要だった	0
言葉が通じない乳児への支援の仕方	0
感情が伝わりにくい、どう接していいか困った	0
<子ども同士の関わりに関するもの>	
子ども同士のトラブル（物とり合い）の対応	6
噛み癖がある子どもへの対応	3
言葉で話すよりも手が出てしまう子どもへ	4
ケンカの対応	2
言葉や意思が伝えられない、友達の言動を理解できない	0
<おむつ換え・排泄に関するもの>	
おむつ交換の方法	3
トイレトレーニングの方法	6
排泄の仕方	2
トイレなど少しずつ自分でやることの指導や個人差に合わせた対応	0
おむつが取れている子の漏らしの対応	0
<遊び・表現に関するもの>	
手遊びや絵本の広げ方	4
歌での関わり・指導の仕方	4
どのようにすれば、筋力を鍛える保育ができるか	0
制作の援助	0
<食事に関するもの>	
食事指導の言葉がけや対応	5
個人差にあわせた食事の援助	1
食事を残す子の対応	2
授乳やゲップのさせ方	2
<安全に関するもの>	
子どもが好きに動き回る	3
つかまり立ちなど不安定でケガをしやすい	3

乳児保育効力感（自作）尺度の作成

走り回る	1
乳児の抱き方	0
<着脱・清潔に関するもの>	
発達に合わせた着脱の援助	2
着替えを一人で行うように援助すること	0
身の回りの清潔に関する躰	0
<睡眠に関するもの>	
午睡時の安全確認	2
おんぶの仕方	0

Table 2 保育所実習において困難さを感じた内容の克服方法についての自由記述	
項 目	重複数
保育者の対応を真似て，実践する	20
コミュニケーションを図り，信頼関係をつくる	8
子どもを観察する	8
子どもの発達を把握する	8
子どもの気持ちを受け止める	6
歌や手遊びなど音から楽しめるようにする	4
子どもの声がけの工夫	3
積極的対応	3
援助方法を学ぶ	3
視野を広くする	0
分からないことは，保護者に確認	0
トラブルの様子を把握	0
トイレに行く習慣づけをする	0
目離さない	0
子どもの興味を把握する	0
絵本を読む	0
興味あるもので，集中させる	0
子どもから話を聞く	0
気持ちを代弁する	0
保護者の子どもへの対応をみる	0
未解決のまま	0

乳児保育効力感の尺度（自作）の作成

質問紙を作成するために研究1【予備調査】の結果と、保育所保育指針解説書・近年本邦で出版されている「乳児保育」の解説書と乳児保育実践カードの内容に沿った「乳児保育効力感」の50の項目候補を作成した。分析者以外の視点から確認するために、臨床心理士1名、保育所勤務の乳幼児の専門家1名の協力を得て、検討を行った。

記述内容の特徴により生成したカテゴリー、「コミュニケーション」「子ども同士の関わり」「おむつ換え・排泄の援助」「遊び・表現」「食事の援助」「安全に関する対応」「着脱・清潔の援助」「睡眠時の援助」から作成された、乳児保育実践カードの内容の具体的保育行為がうまく出来るかどうかの項目を作成した。研究1【予備調査】の「保育所実習において困難さを感じた内容について」の自由記述も、効力感に繋がると考え項目に付け加えた。

①「コミュニケーション」の項目の作成

自由記述の「声がけ・かかわり」から、Q27「保育者や子どもに笑顔で積極的に挨拶ができる」、Q39「褒めたり、励ましたりしながら、片付ける意欲が育つよう援助できる」という項目を作成した。自由記述の「人見知り」から、Q43「嫌がっていたら無理に近づいたり、抱いたりしないことが理解できる」やQ47「人見知りをしている子に少しずつ目を合わせて微笑み、時間を掛けて接することができる」という項目を作成した。自由記述の自由記述の「言葉が通じないので、コミュニケーションの仕方や関わり方が難しい」では、Q9「子どもの喃語に微笑みながら応答することができる」という項目を作成した。それ以外にも、子どもとのコミュニケーションにおいて関連する項目もあるが、歌や手遊び、言葉がけなども重なっているため、わらべ唄・歌遊び・手遊び表現などを含めた内容は、「遊び・表現」に分類し5項目を作成した。

②「子ども同士の関わり」の項目の作成

自由記述の「イヤイヤ期の対応」「自我でてきて自己主張が強くなる」から、Q29「子どもの自我の育ちを見守り、ありのままをうけとめることができる」自由記述の「子ども同士のトラブル（物のとり合い）の対応」から、Q34「きまりやルールがあることに気づかせ、守ろうとする気持ちが育つよう保

育をすることができる」、Q49「子ども同士のトラブルの際は、双方の気持ちを代弁し仲介できる」という項目を作成した。

自由記述の「言葉で話すよりも手が出てしまう子どもへの対応」「ケンカの対応」から、Q5「一人一人の気持ちを受け止め気持ちを分かりやすく伝えながら、かかわりを教えたり、仲立ちをすることができる」という4項目を作成した。

③「おむつ換え・排泄の援助」の項目の作成

自由記述の「おむつ交換の方法」では、Q21「おむつ交換では、優しく声がけしながらある程度の早さでおむつ替えを行うことができる」という項目を作成した。自由記述の「トイレトレーニングの方法」「排泄の仕方」「トイレなど少しずつ自分でやることの指導や個人差に合わせた対応」から、Q2「パンツへの移行は子どもの発達に合わせて、焦らずゆったり進めることが理解できる」、Q23「排泄は、一人一人の発達に合わせて、ゆったりとした気持ちでできるよう優しく見守ることができる」という3項目を作成した。

④「遊び・表現」の項目の作成

自由記述の「手遊びや絵本の広げ方」「歌での関わり・指導の仕方」や保育所実習において困難さを感じた内容の克服方法についての自由記述の「歌や手遊びなど音から楽しめるようにする」から、遊びは子どもとの関わりにおいて、有効であると考え、項目を作成した。その際、遊びは月齢によっても違いがあるので、保育所保育指針解説書の子どもの発達過程のおおむね8つの区分の中の4つの区分に分けて遊び・表現の項目を作成した。

おおむね6ヶ月未満では、Q42「ガラガラで音への反応を見たり、わらべうたを歌ってあやすことができる」、Q19「6ヶ月未満の赤ちゃんにわらべうたを歌ってあやすことができる」という項目を作成した。

おおむね6ヶ月から1歳3か月未満では、Q31「歌をうたって体をゆらしたり、おもちゃを使って体を支えながらねがえりを促すことができる」、Q40「6ヶ月からのふれあい遊びでは、赤ちゃんの体を使って楽しませることができる」、Q13「6ヶ月からのくすぐり遊びでは、子どもの反応を見ながら、歌に合わせてふれあい楽しませることができる」、

Q33「6ヶ月からのわらべうた遊びで、赤ちゃんとかわりながら楽しませることができる」という項目を作成した。

おおむね1歳3か月から2歳未満，Q8「1歳3か月からの赤ちゃんにわらべうたが歌えて、遊ばせることができる」、Q1「1歳3か月からの手遊びでは、表情豊かに歌い、ふれあって楽しませることができる」などで、表情豊かに歌い、ふれあって楽しむことができる」という項目を作成した。

おおむね2歳では、Q36「おおむね2歳の手遊びで、身振り手振りを交え表情豊かに歌い、楽しませることができる」、Q48「おおむね2歳では、わらべうたを通してグループでの遊びを楽しませることができる」という項目を作成した。

「手遊びや絵本の広げ方」において、Q25「発達に合わせた絵本の選定ができ、手遊びなどで落ちつかせて絵本の読み聞かせができる」という項目を作成した。「どのようにすれば、筋力を鍛える保育ができるか」から、Q11「子どもの発達を見通し、全身運動を取り入れた十分な活動をすることができる」、Q4「発達にあわせた遊びやおもちゃや、いろいろな素材を準備することが必要であることが理解できる」という13項目を作成した。

⑤「食事の援助」の項目の作成

自由記述の「授乳やゲップのさせ方」から、Q12「子どもに合わせた調乳・授乳ができる。」という項目を作成した。自由記述の「食事指導の言葉かけや対応」から、Q15「食事は言葉と食感が結びついたり、噛むことを促すような言葉かけができる」という項目を作成した。自由記述の「食事を残す子の対応」「個人差にあわせた食事の援助」から、Q14「褒めたり励ましたりしながら、食べる意欲を育てるよう保育することができる」という3項目を作成した。

⑥「安全に関する対応」の項目の作成

自由記述の「子どもが好きに動き回る」「走り回る」から、Q17「事故が起こる前に危険なものに気づき、未然に防ぐよう保育をすることができる」という項目を作成した。

自由記述の「つかまり立ちなど不安定でケガをしやすい」「誤飲や喉につまらせる」から、Q7「身の回りの環境を衛生的で安全な環境に整えることができる」という項目を作成した。「乳児のお世話の仕方」

から、Q6「子どもの病気や感染予防について理解して対応できる」、Q10「発達に合わせて、縦抱き・横抱きができる」、Q35「首の座っていない赤ちゃんには、首を支え安全に抱き上げることができる」、Q20「子ども一人一人を尊重し、命を預かる大切さを自覚できる」、Q18「アレルギーのある子どもの対応を理解することができる」という7項目を作成した。

⑦「着脱・清潔の援助」の項目の作成

自由記述の「発達に合わせた着脱の援助」「着替えを一人で行うように援助すること」から、Q3「子どもの自分でしようとする気持ちを大切にし、出来ないところはさりげなく手伝い、出来たときは褒めて自信に繋げるよう援助することができる」という項目を作成した。自由記述の「身の回りの清潔に関する躰」から、Q24「身の回りの清潔に関する援助方法が分かり、子ども自ら清潔にしようとする気持ちを育てることができる」という2項目を作成した。

⑧「睡眠時の援助」の項目の作成

自由記述の「午睡時の安全確認」から、Q22「午睡時の環境を整え、安全にこもりうたを歌って、寝かせることができる」という項目を作成した。

自由記述の「おんぶの仕方」から、Q26「おんぶひもの使い方を知り、他の保育者に介助してもらいながら、おんぶをすることができる」という2項目を作成した。

⑨保育所実習において困難さを感じた内容の克服方法についての項目の作成

困難さを感じた内容の克服方法についての自由記述の「保育者の対応を真似て、実践する」から、Q37「保護者と保育者のコミュニケーションのとり方を理解することができる」、Q44「指導者のアドバイスを活かすことができる」、Q45「職員間のチームプレーが理解でき、動きを把握することができる」、Q46「困ったことや分からないことを指導者に質問できる」という項目を作成した。自由記述の「コミュニケーションを図り、信頼関係をつくる」から、Q41「保護者に気持ちよい挨拶ができる」、Q50「保護者と保育者の育児相談の内容が理解できる」という項目を作成した。自由記述の「積極的対応」において、実習生の積極的な取り組みとして、Q38

「実習ノートをある程度、的確な内容と早さで記録することができる」、Q30「実習前に手遊びやわらべうた・シアター等の部分実習の準備ができる」、Q32「ストレスをためず、自分の健康管理が出来る」、Q16「指導者のアドバイスを的確に理解することができる」という項目を作成した。自由記述の「子どもの発達を把握する」から、Q28「子どもの健康状態や発育・発達を把握した保育が理解できる」という項目を作成した。

考察

研究1：「保育所実習終了後アンケート調査」

「実習の体験や先輩保育者の様子みて、何歳児の保育やお世話が大変と感じましたか。」の質問に対し、困難さを感じた年齢は、0歳児クラスの52が最も多く、次いで、2歳児クラスが47、1歳児クラスは、44となっており、圧倒的に3歳未満児に対し、困難さを感じている結果が確認された。言葉でのコミュニケーションが難しく、子どもの表情や発達の様子などから、子どもの気持ちをくみとっていかなければならず、低年齢の子どもに困難さを感じたことが推察される。

学生も先輩保育者の対応を真似て、実践しようとしたり、なんとかコミュニケーションを図り、信頼関係をつくらうとしたり、子どもの発達を把握、援助方法を学ぶことの大切さなどを理解していることが記述の中から読み取れる。その方法の1つとして、歌や手遊びなど音から楽しめるようにすることも見出している。

これらのデータから、具体的なコミュニケーションの取り方、遊びや歌などの学びや、具体的援助方法を分かりやすく教授し、実際に授業で実践・共有することで、保育場面においても、実践できることが増えることで、効力感につながるのではないかと考えた。

乳児保育効力感の尺度（自作）の作成について

予備調査から得られたデータを分類し、生成したカテゴリーの内容や保育所保育指針解説書・近年本邦で出版されている「乳児保育」の解説書と乳児保育実践の内容を反映させた「乳児保育効力感」の50の項目候補を作成した。

研究2

乳児保育効力感尺度（自作）の検討

目的

本研究における乳児保育効力感（自作）は、具体的な乳児を対象とした保育行為に沿った効力感を測定する尺度として作成した。このことから、乳児保育効力感尺度は、「保育専攻学生が保育所実習の乳児保育において、適切な保育行動が自分に行えるかどうかという自己関連思考であり、乳児保育のある結果を生み出すために必要な行動をどれだけうまく行うことができるかという個人の確信である」ということを定義する。

予備調査から作成した乳児保育効力感尺度の因子構造を検討する。さらに内的一貫性の観点から、信頼性の検討を行う。

調査対象

A県内のC短期大学2年生の保育専攻学生の中で、保育所実習を希望している122名の内、118名が調査対象であった。

調査時期および調査手続

(1) プログラムの日程

平成28年6月中旬に実施した。

(2) 倫理的配慮

調査は、筆者の授業終了後に実施した。いずれの調査も倫理的配慮として、「自由参加であること」「成績には関係ないこと」「個人情報厳守することを説明する」をフェイスシートに記載し、口頭でもそれを伝える。

調査内容

質問紙の内容は以下の通りであった。

乳児保育効力感尺度（自作）

乳児保育に対する効力感を把握するために「乳児保育効力感」の項目候補を作成した。

予備調査の記述内容の特徴により生成された8つのカテゴリーと保育所保育指針解説書・近年本邦で出版されている「乳児保育」の解説書、及び実践カードの内容の具体的保育行為が上手く出来るかどうかの項目を付け加え、乳児保育効力感の50の項目候補を作成した。分析者以外の視点から確認するために、臨床心理士1名、保育所勤務で、乳幼児の専門家1名の協力を得て、検討を行った。

結果

1. 乳児保育効力感（自作）の因子分析および記述統計

乳児保育効力感の50の項目候補について、天井

効果・床効果を検討した。その結果、1項目で得点の分布に著しい偏りがみられたので、分析から除外した。

次に49項目候補について、因子分析（最尤法・Promax回転）を行い、因子構造を検討したところ、固有値は12.38, 4.0, 2.76, 1.37, 1.27・・・と推移していたため、1因子性が高いものの、下位尺度同士が相関をもつというモデルを踏まえて4因子解を採用した。その後、最大因子負荷量が.40以上の項目や.35以上の多重負荷をもつ項目を削除しつつ、繰り返し因子分析を行ったところ、最終的に4因子39項目となった。4因子の累積寄与率は50.10%であった。乳児保育効力感尺度の因子分析の結果をTable 3に示す。

第1因子は、「わらべうた遊びでかかわりながら楽しませることが出来る」や「ふれあい遊びで、体を使って楽しませることが出来る」などの項目が属しているため、「表現遊び」と命名した。第2因子は、「困ったことや分からないことを指導者に質問できる」「指導者のアドバイスを活かすことができる」などの項目が属しているため、「困難希求」と命名した。第3因子は、「子どもに合わせた調乳・授乳ができる」「発達に合わせて縦抱き・横抱きができる」などの項目が属しているため、「適切養護」と命名した。第4因子は、「褒めたり励ましたりしながら、食べる意欲を育てるよう保育することができる」「食事は言葉と食感が結びついたり、噛むことを促すような言葉がけができる」などの項目が属しているため、「言語的賞賛」と命名した。

因子間相関では、 $r = .36 \sim .66$ の相関が見られ、特に「適切養護」と「言語的賞賛」との相関が強かった。下位尺度ごとに α 係数を求めたところ、.92～.82となり、十分な値であった。

考察

乳児保育効力感（自作）の因子構造の検討

研究1の目的は、乳児保育効力感の50の項目候補を作成し、信頼性を検討することであった。

因子分析（最尤法・Promax回転）の結果、4因子40項目からなる乳児保育効力感尺度を作成した。

第1因子は、「表現遊び」と命名した。言葉でのコミュニケーションや関わり方が難しい乳児に対し、歌や手遊びなど女性の優しい声や身振りから、

分かりやすく楽しく関わりをもつことが大切であると考えた。わらべうた・歌遊び・手遊びなどの表現を通し、体に触れてあやすことで、関わりやすくなることを反映した因子である。

第2因子は、「困難希求」と命名した。学生が実習などを通し、困難な状況に直面した時、指導者に自ら質問し、その状況を乗り切ることができることは、大切である。同時に、指導者からのアドバイスを活かしながら、より良い実習にしていこうとする姿勢や周囲の人と積極的に挨拶し、しっかりとコミュニケーションをとろうとする態度は、重要である。そのために因子としてまとまったと考える。

第3因子は、「適切養護」と命名した。乳児保育では、個人差をよく知り、一人一人の子どもの発達過程をよく理解して、援助することが大切である。食事や睡眠、排泄、感染症予防など、養護の面の保育スキルを理解するという方略を反映した因子である。

第4因子は、「言語的賞賛」と命名した。保育者は、ノンバーバルなコミュニケーションを含め、子どもの言葉を聞き取る力をもったよい聞き手であると同時に、子ども同士の会話を成立させるための役割を担うことで、子ども同士の意思の疎通が図れるようになっていく。保育のさまざまな場面により、子どもの気持ちに寄り添い、励まし、助言を行うための因子としてまとまったと考える。

尺度の内的一貫性を検討するため、Cronbachの α 係数を算出してところ、表現遊び尺度で.92、困難希求尺度で.89、適切養護で.89、言語的賞賛で.82と高く、満足し得る内的一貫性が認められた。

保育者能力向上の観点から、田辺（2011）は、保育者効力感という概念が保育者の資質向上について多岐にわたる保育の専門性の実践において、有効な要因としていることを報告している。このことから、実習や保育の現場において、必要な保育行為が上手にできるかどうかという見通しや予測の認知として、保育者効力感を高めることが大切であると考え、乳児保育に特化した乳児保育効力感の尺度の作成を行った。実習の乳児保育の場面において、具体的な保育行為に沿った効力感の測定を行うことができ、困難な状況において、乳児保育のスキルの習得をすることで対処することに重点を置いている。今後、保育者養成において、

講義や重要な実習を乗り切り、乳児保育のスキルの習得を捉える視点として、尺度を活用したい。

謝辞

聖徳大学大学院の鈴木由美先生には、いつも熱心なご指導とともに温かい励まし、多大なる示唆を頂き、支えていただきましたことを厚く御礼申しあげ、心より感謝いたします。

また、多くの学生、卒業生の皆様に調査に協力していただきましたことを感謝申し上げます。

引用文献

- Bandura, A. (1977) .Self-efficacy: Toward a unifying theory of behavioral change, *Psychological Review*, 84, 191-215.
- 岩崎桂子 (2009). 保育効力感研究の現状と課題, *小池学園研究紀要*, 4, 77 - 85.
- 加藤孝士・浜崎隆司・寺園さおり・森野美央 (2008). 保育専攻短期大学生の保育者効力感と実習評価の関係—実習前の保育者効力感の高低の視点から— *四国大学紀要*, 38, 69 - 74.
- 神村栄一・海老原由香・佐藤健二・戸ヶ崎泰子・板野雄二 (1995). 対処法略三次元モデルと新しい尺度 (TAC - 24) の作成 *教育心理学研究*, 33, 41-47.
- 厚生労働省 (2008). 保育所保育指針解説書 (pp. 15 - 249) フレーベル館
- 厚生労働省 教科目の教授内容 <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2010/01/dl/s0118-6b.pdf>
- 川原佐公・古橋紗人子 (2012). 赤ちゃんから学ぶ「乳児保育」の実践力—保育所・家庭で役立つ— (pp. 46 - 135) 保育出版社
- 三木知子・桜井茂男 (1998). 保育専攻短大生の保育者効力感に及ぼす教育実習の影響 *教育心理学研究*, 46, 203-211.
- 三宅幹子 (2005) . 保育者効力感の概観 *福山大学人間文化学紀要* 5, 31-38.
- 三好年江・石橋由美 (2006) . 『初任保育者の担当クラスと子どもの遊びにかかわるときの問題意識からみた保育士養成校の課題 *新見公立短期大学紀要* 27, 111 - 116.
- 西山修 (2005). 幼児の人とかかわる力を育むための保育者効力感尺度の開発 *乳幼児教育学研*

究, 14, 101-108.

- 西山修 (2006). 幼児の人とかかわる力を育むための多次元保育者効力感尺度の作成 *保中村多見 (2006) . 保育学生の保育観 (1) —保育者効力感の発達— 高松大学紀要*, 45, 197 - 206.
- 岡本憲和・立元真 (2007). 保育者養育スキル尺度の作成 *宮城大学教育文化学部附属教育実践総合センター研究紀要*, 15, 33 - 42.
- 小園江幸子 (2009). 保育実習自己効力感尺度作成の試み *淑徳短期大学研究紀要*, 48, 123-135.
- 小園江幸子 (2013). 保育実習が学生の自己効力感に与える影響—保育専攻学生2年間の縦断的データの分析— *淑徳短期大学研究紀要*, 52, 117-128.

付記

この論文は、聖徳大学大学院の卒業論文を加筆修正したものである。

乳児保育効力感（自作）尺度の作成

Table 3 乳児保育効力感尺度の因子分析結果（最尤法・Promax回転）

		F1	F2	F3	F4	共通性	平均値	SD
F1	表現遊び $\alpha = .92$							
33	6ヶ月からのわらべうた遊びで、赤ちゃんとかかわりながら楽しませることができる。	.99	.04	-.02	-.23	.85	1.83	
40	6ヶ月からのふれあい遊びでは、赤ちゃんの体を使って楽しむことができる。	.85	-.02	-.06	.05	.81	2.72	.782
19	6ヶ月未満の赤ちゃんにわらべうたを歌ってあやすことができる。	.85	-.09	-.03	.06	.77	2.88	.894
31	歌をうたって体をゆらしたり、おもちゃを使って体を支えながらねがえりを促すことができる。	.83	.06	.14	-.17	.83	1.93	.700
42	ガラガラで音への反応を見たり、わらべうたを歌ってあやすことができる。	.76	.00	.07	-.17	.65	2.09	.700
36	おおむね2歳の手遊びで、身振り手振りを交え表情豊かに歌い、楽しませることができる。	.71	.07	-.16	.09	.66	2.40	.837
13	6ヶ月からのくすぐり遊びでは、子どもの反応を見ながら、歌に合わせてふれあい楽しませることができる。	.71	-.15	.07	.17	.69	1.99	.927
48	おおむね2歳では、わらべうたを通してグループでの遊びを楽しむことができる。	.64	.08	-.09	.14	.63	2.47	.886
1	1歳3か月からの手遊びでは、表情豊かに歌い、ふれあって楽しむことができる。	.51	.07	.02	.05	.53	2.66	.867
8	1歳3か月からの赤ちゃんにわらべうたが歌えて、遊ばせることができる。	.41	-.08	.22	.21	.58	2.19	.851
F2	困難希求 $\alpha = .89$.973
46	困ったことや分からないことを指導者に質問できる。	-.01	.95	.00	-.28	.71	3.70	
44	指導者のアドバイスを活かすことができる。	-.04	.78	-.30	.03	.60	3.42	.79
41	保護者に気持ちよい挨拶ができる。	.08	.78	-.03	-.13	.65	3.98	.68
27	保育者や子どもに笑顔で積極的に挨拶ができる。	.01	.77	-.13	.10	.69	4.21	.80
45	職員間のチームプレーが理解でき、動きを把握することができる。	-.07	.62	.08	.00	.55	3.14	.77
16	指導者のアドバイスを的確に理解することができる。	-.01	.51	.05	.18	.63	3.42	.66
30	実習前に手遊びやわらべうた・シアター等の部分実習の準備ができる。	.02	.46	.01	.00	.47	3.07	.69
49	子ども同士のトラブルの際は、双方の気持ちを代弁し、仲介できる。	-.06	.45	.19	.20	.68	3.20	.89
20	子ども一人一人を尊重し、命を預かる大切さを自覚できる。	-.08	.44	.12	.19	.68	3.89	.65
38	実習ノートをある程度、的確な内容と早さで記録することができる。	.05	.44	-.19	.05	.37	2.72	.80
47	人見知りをしている子どもに少しずつ目を合わせて微笑み、時間をかけて接することができる。	-.01	.44	.25	.09	.61	3.39	.77

29	子どもの自我の育ちを見守り、ありのままを受けとめることができる。	.05	.43	.26	.08	.71	3.41	.77
39	褒めたり、励ましたりしながら、片付ける意欲が育つよう援助できる。	.07	.42	.00	.23	.71	3.31	.70
F3	適切養護 $\alpha = .89$.66
12	子どもに合わせた調乳・授乳ができる。	-.02	-.25	.87	.02	.68	2.38	
10	発達に合わせて縦抱き・横抱きができる。	.03	-.06	.83	-.09	.66	2.79	.89
21	おむつ交換では、優しく声がけしながらある程度の早さでおむつ替えを行うことができる。	-.07	-.12	.82	.02	.67	2.60	.94
35	首の座っていない赤ちゃんには、首を支え安全に抱き上げることができる。	-.02	.11	.79	-.20	.60	2.98	.88
6	子どもの病気や感染予防、障害について理解して対応できる。	-.01	-.06	.54	.18	.61	2.29	.90
11	子どもの発達を見通し、全身運動を取り入れた十分な活動を行うことができる。	.06	-.03	.52	.18	.56	2.39	.79
2	パンツへの移行は子どもの発達に合わせて、焦らずゆったり進めることが理解できる。	-.02	-.09	.50	.02	.47	2.82	.82
28	子どもの健康状態や発育・発達を把握した保育が理解できる。	.00	.38	.50	-.01	.73	2.89	.94
23	排泄は一人一人の発達に合わせて、ゆったりとした気持ちでできるよう優しく見守ることができる。	.04	.25	.48	.00	.62	3.12	.76
24	身の回りの清潔に関する援助方法が分かり、子ども自ら清潔にしようとする気持ちを育てることができる。	.11	.19	.44	.06	.60	3.04	.77
7	身の回りの環境を衛生的で安全な環境に整えることができる。	-.01	-.05	.41	.31	.56	3.00	.73
F4	言語的賞賛 $\alpha = .82$.77
14	褒めたり、励ましたりしながら、食べる意欲を育てよう保育することができる。	.04	.02	.01	.83	.74	3.30	
15	食事は言葉と食感が結びついたり、噛むことを促すような言葉がけができる。	.04	.15	.08	.67	.74	3.34	.91
5	一人一人の気持ちを受けとめ気持ちを分かりやすく伝えながら、かかわり方を教えたり仲立ちをすることができる。	-.16	.00	.15	.61	.60	2.98	.83
9	子どもの喃語に微笑みながら応答することができる。	.21	.02	.10	.43	.59	3.50	.66
因子間相関		F1	—					
		F2	.36	—				
		F3	.48	.55	—			
		F4	.44	.55	.66	—		